オーディオ実験室収載

アームダンパーの効果(8)
－LINN LP-12(3)－

１．始めに

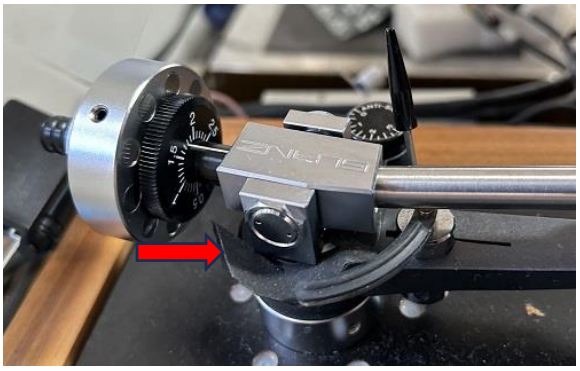
前報(3)と前報(5)の結果から LINN LP-12 のアーム GRANZ MH-9Bt では可動部と固定部の隙間が狭いことから付け外しが困難であり、別のアプローチをとってみます。

２．アームダンパーの試聴計画

今回使用するのは 3 種の和紙と消臭用の木炭紙です。

和紙 A　　和紙 B（楮 100%）　和紙 C（書道用）

木炭紙



音源は下記のオルガンの入った曲を使用し、前報(7)同様、重低音まで伸びているということで、スピーカーは 38cm ダブルウーファーの JBL43050A を使用します。

ARCHIV　MA-5007

　バッハ　トッカータとフーガニ短調・ヘ長調

　ヘルムート・ヴァルヒャ（オルガン）

TELARC　STEREO 10051

　サンサーンス　交響曲 3 番「オルガン」

　ユージンオーマンディ指揮フィラデルフィア交響楽団

　ミカエル・マレイ

FONTANA　PL-1023

リヒヤルト・シュトラウス　ツアラトウストラかく語りき

ベルナルド・ハイティンク指揮アムステルダムコンセルトヘボウ

３．アームダンパーの試聴結果

A の和紙､B の和紙および C の和紙のアームダンパーをセットしようとしましたが、厚みが薄く腰がないので、GRANZ MH-9B の可動部と固定部の隙間にはめようとしましたが、うまく行かず見送りました。

そこで、厚みがあって比較的腰の強い木炭紙のアームダンパーをセットしましたが、バッハのトッカータとフーガ、 サンサーンスの交響曲 3 番「オルガン」、リヒヤルト・シュトラウスのツアラトウストラかく語りきとも効果を認めませんでした。ツアラトウストラかく語りきの冒頭のオルガンの持続音のゆれもそのまま残ります。

そこで、前報(3)および前報(5)で効果のあった毛糸に戻し、今回はきつめに 2 ターン巻いてみました。

バッハのトッカータとフーガは、大きくは変りませんが、全体域にわたって音がクリアーになり、一音一音が明瞭になってきます。

サンサーンスの交響曲 3 番「オルガン」は、終章のオルガンと低弦とグランカッサとチューバなどのそれぞれが明瞭になり、濁りが後退します。

リヒヤルト・シュトラウスのツアラトウストラかく語りきは、オルガンの重低音の持続音、グランカッサの連打も明瞭になり、金管の咆哮の迫力がでてきます。冒頭のオルガンの重低音の持続音のゆれは幾分残っていますが、軽減されています。

以上、木炭紙のアームダンパーで効果を認めなかったことは、厚みや弾力性が不足するものと考えられます。毛糸は曲が変わっても効果を発揮することが分りました。

４．まとめ

和紙 3 種を切り抜いたアームダンパーはうまくセットすることができず、木炭紙を切り抜いたアームダンパーを LINN LP-12 のアーム MH-9Bt にセットする効果も認めることができませんでした。従来の毛糸に戻しますと、前報(3)および前報(5)と同様、曲は変わっても、効果を認めました。

以上